

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	江戸川区発達・相談支援センター		
○保護者評価実施期間	2025年3月1日		～ 2025年3月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	2025年3月1日		～ 2025年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○訪問先施設評価実施期間	2025年3月1日		～ 2025年3月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12件	(回答数) 7件
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性と丁寧な支援対応 ・訪問支援員が個々の児童の特徴を正確に把握し、具体的かつ実践しやすい助言を提供している。	視覚的な教材の活用と現場へのフィードバック ・「集団生活で取り入れるのは難しい」という声を受け、写真掲示など視覚的な資料を導入して、保育現場での実践に役立っている。	より実践的なサポート方法の発案 ・それぞれの現場に応じた助言ができるように、支援者のスキルアップが求められる。
2	明確な支援計画と連携体制の構築 ・サービス担当者会議を定期的に行き、ターゲットを明確にしたうえで個別支援計画を策定し、保育現場や保護者との連携が円滑に行われている。	定期的な会議・フィードバックの仕組み ・状況に応じて定期的にサービス担当者会議を開催し、支援計画の内容を現場・保護者と共有し、その都度フィードバックを受けながら柔軟に支援内容を調整している。	支援体制の拡充 ・ケースによっては現状の訪問頻度(例えば月1回程度)は確かに少ない現状はあるため、周辺の支援サービスなども同時に検討することで十分なサービスを提案。
3	家族支援プログラムの実施 ・「べあすく」などのペアレントトレーニングを通じて、保護者へのサポートもしっかり実施された上で、家族だけではなく関係者(園)も含めた子どもの発達を支える体制が整っている。	保護者とのコミュニケーション強化 ・通所時の直接のフィードバック、電話等でのフィードバックを通じ、保護者との連絡や意思疎通を大切にしている。	定期的なカンファレンスの実施 ・支援員・現場スタッフ間で、成功事例や課題について情報共有できる研修やカンファレンスの場を増やし、関わる大人全員で支援が前に進んでいる状況を共有する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団保育現場への適用の難しさと訪問頻度の不足 ・支援内容が個別に非常に優れている一方で、集団保育という環境での実践が困難であるという声があり、課題が解消されにくい状況も得られた。	環境的・体制的制約 ・グループ保育という現場構造上、個別の支援内容をそのまま適用するのは難しく、実践の難易度が高い可能性がある。	訪問先へもスモールステップで行えるサポートの提案 ・集団現場でも容易に行え、先生と子どもがそれぞれ成功体験を積めるような助言を行う。